

16. ブロイラーの鶏アデノウイルス性筋胃びらん

誌名	鶏病研究会報
ISSN	0285709X
著者名	川村,舞香
発行元	
巻/号	43巻4号
掲載ページ	p. 233
発行年月	2008年2月

農林水産省 農林水産技術会議事務局筑波産学連携支援センター
Tsukuba Business-Academia Cooperation Support Center, Agriculture, Forestry and Fisheries Research Council
Secretariat



鳥病カラーシリーズ

16. ブロイラーの鶏アデノウイルス性筋胃びらん (Gizzard erosion in young broiler chicks by fowl adenovirus)

キーワード：ブロイラー、鶏アデノウイルス、筋胃びらん、核内封入体

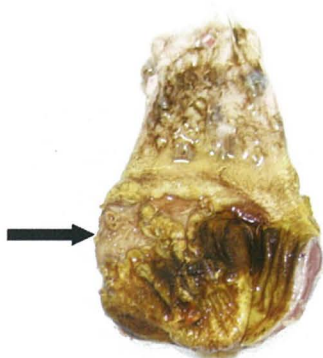


写真 1. 筋胃の腺胃側にすずめ卵大の潰瘍が存在し、胃内容は黒色水溶性であった。

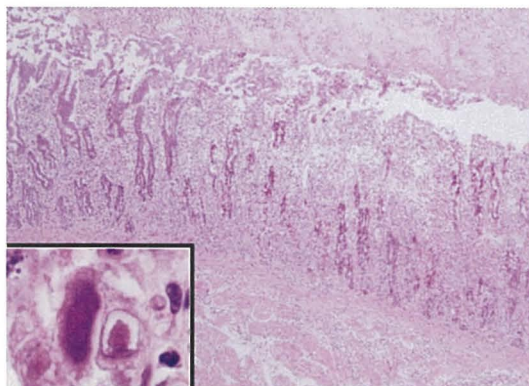


写真 2. 筋胃の潰瘍部では、ケラチノイド層と腺上皮細胞は脱落し、偽好酸球やリンパ球、マクロファージが筋層に浸潤し、筋胃腺が消失している。HE 染色。挿入図：残存する腺上皮細胞の核内封入体。

動物：ブロイラー（チャンキー）、性別不明、16日齢
発生状況および症状：ウィンドウレス鶏舎3棟で、チャンキー約18,000羽を飼養する農場の1鶏舎のみで元気消失、食欲不振がみられ、通常は1鶏舎あたり1日に1～2羽程度の死亡羽数が、9羽、11羽、5羽と若干の増加が認められた。

肉眼所見：死亡例5例の解剖を行い、全例で筋胃の中心部から腺胃側に米粒大～すずめ卵大の潰瘍がみられた（写真1）。大型の潰瘍を形成した症例では、胃および空腸内容物は黒色水様性を呈していた。その他の臓器に著変は認められなかった。

組織所見：筋胃のケラチノイド層と筋胃腺の腺上皮は単発性～多発性に脱落、消失し、粘膜固有層から筋層にかけては偽好酸球やリンパ球、マクロファージが浸潤していた（写真2）。びらん・潰瘍部では、筋胃腺の構造はほぼ消失し、残存する筋胃腺の腺上皮細胞の核は腫大し、好酸性～好塩基性の full type やハローを有する核内封入体が認められた（写真2挿入図）。封入体は比較的小型の潰瘍であった5例中2例でみられ、腺上皮細胞がほぼ完全

に消失するほど炎症が進行していた検体ではみられなかった。潰瘍部上部には線維素が析出し、痂皮を形成していた。脾臓を含むその他の臓器に著変は認められなかった。全例について抗鶏アデノウイルスによる免疫組織化学的染色を実施したところ、核内封入体に一致して鶏アデノウイルス抗原が検出された。透過型電子顕微鏡で、封入体の存在した筋胃の腺上皮細胞の核内や細胞質内に、結晶状に配列するアデノウイルス様粒子が認められた。

解説：鶏アデノウイルスによる筋胃びらんは、単独感染で筋胃びらんを発症するが、通常は臨床症状を示さずに経過するため、食鳥検査時に筋胃びらん・潰瘍の病変により廃棄され発見に至ることが多い。一方で、若齢での感染で、死亡羽数が増加したために、発見される例も報告されている。今回は、徳島県、宮崎県、鹿児島県に続き、死亡羽数の増加を伴った鶏アデノウイルスによる筋胃びらんが茨城県で発見された。なお、アデノウイルス性筋胃びらんは血清型1型のウイルスで起こるとされているが、今回ウイルス分離、PCR検査は実施されていない。